

令和5年5月11日

朝日丘地域会議
会長 日高 守 様

豊田市長 太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第1項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

- 1 報告事項 令和4年12月8日に朝日丘地域会議から受けた「カーボンニュートラル実現に向けた地域や家庭での環境配慮行動の促進」に関する答申に対する検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 環境部環境政策課

朝日丘地域会議からの答申に対する検討結果の報告

令和4年12月8日に朝日丘地域会議から受けた「カーボンニュートラル実現に向けた地域や家庭での環境配慮行動の促進」に関する答申について、次のとおり検討結果を報告します。

1	答申内容	<p>「水道・電気使用量の削減やごみ減量を意識している地域」を目指す</p> <p>(1) 区民会館の設備更新 照明LED化やエアコン更新、太陽光パネル・蓄電池の設置等。</p> <p>(2) レジ袋の代わりに豊田市指定ごみ袋の利用 レジ用ごみ袋を作成し、販売または配布。</p>
	市の考え	<p>(1) 施設の照明LED化やエアコン更新工事は、地域集会施設整備事業補助金の補助対象です。令和5年4月より、太陽光発電及び蓄電池システム設置についても、新たに補助対象とすることとしました。</p> <p>(2) 「買物袋持参運動」(市民運動)やレジ袋無料配布中止など、本市では国に先んじて取り組んできた経緯があり、市民にはエコライフの象徴として買い物時のマイバッグ持参の定着が進んでいる状況にあります。引き続き、市民、事業者、行政が一体となって、マイバッグ持参を推進し、レジ袋を受け取らない意識を高めていきたいと考えています。合わせて、マイバッグを繰り返し使うことで、資源を大切にすることを環境意識の醸成もできると考えています。</p>
2	答申内容	<p>「近場の移動は車に乗らない地域」を目指す</p> <p>(1) 「マイカー年休運動」の実施 自家用車以外の利用を促進するための啓発活動。</p> <p>(2) 万歩計アプリの活用 アプリの周知。アプリを使ったウォーキングイベント実施。</p> <p>(3) 朝日丘循環バスの整備 朝日丘地域や豊田市駅をつなぐバスの運行。</p>
	市の考え	<p>(1) カーボンニュートラルにつながるアクションの一つとして、参考にさせていただきます。交通分野のCO₂削減の取組については、引き続き、パークアンドライドや公共交通の利用促進を呼びかけていくとともに、ガソリン車から、HVやPHV、EVなどの走行時にCO₂排出量が少ない又は出ない次世代自動車の選択を推奨していきます。</p> <p>(2) 近場の移動は自動車に頼りすぎず、歩くことでCO₂削減につながります。アプリを活用することで、楽しみながら取組を継続できるというメリットがあるため、市や団体等が実施しているウォーキングイベントなどを通して、各自に合った方法で、取り組みを推進できればと考えます。</p> <p>(3) 本テーマである環境配慮行動の視点以上に、バスの必要性について議論が必要かと思えます。そのため、本諮問及び答申の枠組みではなく、現在実施している地元自治区との勉強会等を通して、判断していくべきことと考えます。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">答申内容</p>	<p>「カーボンニュートラルを身近に感じて学べる地域」を目指す</p> <p>(1) SNSフォトコンテストの実施 地域の子ども・若者向けイベントの実施。</p> <p>(2) ごみを使ったアートコンテストの開催 アート要素を加えた「スポGOMI」を豊田市美術館で開催。</p> <p>(3) 植樹イベントの実施 地域住民を対象とする施設周辺での植樹イベントの実施。</p> <p>(4) 各自治区にカーボンニュートラル推進委員の設置 地域住民に「カーボンニュートラル」を広める。</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 市の考え</p>

担当部署：環境部 環境政策課

1 (1) は地域振興部 地域支援課